




関東 13 団体

栃木県立真岡北陵高等学校

地域ビジネス研究班 竹粉の有効利用と里山保全


放置竹林の地域課題を解決するため、竹粉を使ったエコビジネスをすることにしました。竹粉には、ラクトバチルス・プレビスという乳酸菌が含まれ、整腸作用が期待できることから本校で飼育している動物に与えてみたところ脂質が減少するという結果がでました。このことから、ドッグフードを作成しました。また、竹粉はわらと混ぜ合わせることで、臭いを抑えた牛舎敷料としても使用しています。



群馬県立大泉高等学校

植物バイオ研究部 茂林寺沼湿原における保全活動～『日本遺産』の原風景再生を目指して～


茂林寺沼湿原は、令和元年には里沼の原風景と文化の共存という視点から「日本遺産」に認定されました。この原風景の象徴となる植物がカキツバタですが、来訪者による外来植物の定植などによりカキツバタの生育環境が奪われています。そこで、私たちは館林市教育委員会と協力しながら、以下の活動を継続しています。①カキツバタの増殖、②外来植物の除去作業、③環境保全を呼びかける活動



群馬県立利根実業高等学校

生物資源研究部 イノシシチーム イノシシの侵入防護研究と普及活動


生物資源研究部では、10年前よりイノシシの侵入防護研究を行っています。研究目的は、農業廃材等を利用した移動が容易な侵入防護柵の開発と被害農地への設置です。現在、1.研究活動、2.普及活動、3.地域連携活動、4.環境教育活動を柱に取り組んでいます。本年度は、廃棄された輸送用タマゴトレイを利用した、凹凸効果による侵入防護について研究し、成果発表や地域連携活動も実施しました。



群馬県立利根実業高等学校

生物資源研究部 シカチーム 赤城山におけるニホンジカの生態・行動研究と玉原湿原におけるミズバショウ群生地の保護活動


生物資源研究部では、1.赤城山におけるシカの生態・行動研究＝シカの広域分散化の要因究明とシカの行動サイクルを調査し、農業被害の予防につなげています。2.玉原湿原(沼田市)のミズバショウ群生地の保護活動＝ミズバショウ群生地の保護活動を3年前より実施し、群生地を防獣ネットで覆うことでシカの侵入被害(摂食被害)を抑制しています。3.情報発信と環境教育活動に取組んでいます。



東京都立国分寺高等学校

生物部 カラスバト班 カラスバト×こだま カラスバトを絶滅から救え!!


天然記念物に指定されている準絶滅危惧種カラスバトは、その生態研究が進んでいない中で生息地の開発が進み将来が危惧されている。生物部では10年間、カラスバトの生態調査研究を進めてきた。工夫を重ねた結果、照葉樹を中心とした暗い森に生息していることが分かってきた。大島公園や多摩動物園での研究成果を加えて発表し、保全も考え、存在を広く知らしめるために行動していきたい。



東京都立富士高等学校

学生団体えこま “えこま”を創る!


環境保全と消費活動の両立をするために作られたのが「サステナブル・ラベル」ですが、認知度や商品の普及率が低いという課題があります。これを解決するのが「学生団体えこま」(Ecological Market)。「サステナブル・ラベル商品を買うこと」が環境問題解決に繋がることを広め、「商品を届ける」えこま店舗、オンライン勉強会を行っており、今年度中にネットショップもオープンする予定です。



東京都立府中東高等学校

生物部 室内における養殖技術の確立


本校生物部では大学と共同研究を行い、クエ(Epinephelus bruneus)及びオニオコゼ(Inimicus japonicus)に波長の異なる可視光を照射し、魚の成長速度(体長・体重および摂食量の変化や餌の食べ方等)に変化が生じるか調べ、限られた空間で効率よく成長させるための養殖技術について研究している。その他にホタル幼虫のエサとなるカワナ(Semisulcospira libertina)の養殖研究等も行っている。



慶應義塾湘南藤沢高等部

環境プロジェクト 人とのつながり

私達は2003年に発足した有志団体で、「環境問題に関して見聞を深め、自ら行動して啓発の中心となる」を目標に活動しています。主な活動として、小学校3校で環境問題をテーマに出前授業を作成・開催しその成果は大きいと実感しています。今年度は、コロナウイルスによる休校期間をチャンスと捉え、中学2年生を対象にSDGs4番を元に「人々はなぜ教育を受けるのか」というオンライン授業を開催しました。



新潟県立加茂農林高等学校

生命情報コース 環境班 ホタルが舞う故郷を目指して

高校内に流れる大皆川に毎年ホタルが飛びますが、その数は年々減少しています。そこで、河川の環境整備と水生生物の調査を行い、地域資源としての活用と保全活動を行いました。「ひとつづくり」として、ホタルの学習や河川の調査研究を実施。「ものづくり」として、河川環境の整備と地域連携。「ことづくり」として、6次産業化の研究と商品開発による地域マネジメントを学習しました。

